

学校だより



はと広場

令和6年 10月 号
さいたま市立北浦和小学校
TEL 048-831-2463

「看板」の意味を問う

校長 永井 有司

秋冷の候、ますます御健勝のこととお喜び申し上げます。日頃から本校の教育活動に御理解・御協力をいただき、心より感謝申し上げます。

9月後半から、ようやく暑さが落ち着いてきたという感じがあります。以前であれば、9月は「運動会の季節」と思われていたと思いますが、9月に入っても暑い日々が続き、屋外での活動が制限されることが多くなりました。季節感も変わってきており、北浦和小学校のように、10月に運動会をした方が、事前の練習も含めて実施しやすくなっていると思います。

ところで、9月は、5日(木)の5年生に始まり、6日(金)は3年生、18日(水)は、2年生と校外学習が続きました。また、21日(土)にはマーチングバンドが埼玉県大会に参加しました。校外学習等に出かける際に、わたしがよく子どもたちに話すことがあります。それは、「学校から外に出る時には、みなさんは学校の代表という気持ちで参加してくださいね。外からは『北浦和小学校の子』として見られて、みなさんの態度がそのまま北浦和小学校の評価になりますからね」と励ましの意味を込めて話すのです。課外活動であるマーチングバンドも、「北浦和小学校」という看板を掲げて活動をしていますので、北浦和小学校の児童として立派な態度で臨んでほしいと話をすることがあります。北浦和小の子どもたちは、わたしの話にしっかりと応えて、代表としての自覚をもって行動してくれるのでとても嬉しく思います。

「看板」という言葉を使った慣用句もいくつもありません。「看板が泣く」「看板に偽りなし」「看板を下ろす」「看板借り」「看板倒れ」……。それぞれの意味まで読んでみると、看板の大切さを改めて思われます。また、北浦和小学校という看板を背負っている、また卒業後は卒業生という看板を背負う子どもたちが、その自覚をもって恥じない行動をとることができるように、一人ひとりを育てていかなければならないと強く思われる次第です。

さて、「看板」という言葉を取り上げておりますので、自分に置き換えて考えてみました。看板は様々なものがありますが、わたしは、看板と聞くと、工事現場にある右の看板を思い浮かべます。車でドライブなどをしていると、必ずといってよい程、よく見かける看板ですが、「この看板の姿勢をいつももち続けたい」という気持ちになります。「御迷惑をおかけしております 工事中御協力をお願い致します」と。完全な人など誰もいませんから、誰も人は生きている限りいろいろな意味で成長することが求められていることなのでしょう。成長過程では、いろいろな方に御迷惑をかけたりお世話になったりすると思います。そう考えていくと、全ての人に頭を下げているこの工事現場の方のように、「謙虚な気持ちで日々生活したい」という気持ちに駆られるのです。子どもの身近にいる大人こそ、この姿勢をもち、それを子どもたちに示していければ、子どもたちも周囲の人たちに感謝の気持ちを自然と感じられるようになっていくと信じています。わたしたちの背中を絶えず子どもたちが見ていることを自覚しながら生活し、子どもたちに失望ではなく希望を与えられる存在となりたいと強く願っております。社会にはいろいろな問題が渦巻いていますが、少なくとも家庭や教育現場は、希望がもてるような場でありたいものです。

